

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800218		
法人名	(株式会社)ファミリー中部		
事業所名	グループホームファミリー(1号館)		
所在地	岐阜県土岐市泉町定林寺962-76		
自己評価作成日	平成25年8月5日	評価結果市町村受理日	平成25年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosyoCd=2171800218-008PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年9月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔、ゆっくり、傾聴、共感、情報公開」の5大理念の実践、継続。利用者様が中心を第一に考え、介護する職員との信頼関係を高め理想的な空間を築き上げて行く。家庭的の建物と言う事を活かし、本当の家族のように接して、お互い楽しく日々を送れるように努める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、民家を改良し、平成13年11月に開設している。その間、民家の良さを残しながら、不備な面の改修を重ね、地域に有用なグループホームとして定着している。運営面では、職員の能力を引き出し、サービスの質を高め、利用者、家族との信頼関係を築きあげている。今回、職員からの改善提案には、報奨金制度を取り入れ、数件の提案を採用している。職員は、利用者の思いを受け入れ、自己決定を尊重しながら、最期まで楽しい暮らしが送れるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価票(1号館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中で意識づけ、全ての介護員に周知している。新入社員には教育する。	理念は「笑顔でゆっくり、傾聴と共感する」と掲げ、地域に開かれたホームを目指している。会議や職員教育の場で、理念の意義を共有している。利用者の思いに共感し、自由に笑顔のある暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の周辺が工場や民家の為、挨拶程度にとどまっているが、運営者が町内や地域の活動に参加して付き合いを大事にしている。	運営者が自治会員であり、ホームの役割や協力できることなどを啓発し、周辺のごみ掃除や草刈に参加している。中学生の職場体験や芸能、健康体操ボランティアも頻繁に訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議で、家族様の代表や、区長様、民生委員の方々に情報の発信や収集を、お願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様の代表の方からの苦情、提案要望等を受け、処理や解決もしくはアイデア等に取り入れている。	運営推進会議は隔月に開き、サービスの現状を報告し意見を交わしている。利用者の病気や怪我、事故対応と経過・予防等を話し合い、サービスの改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護支援専門員や管理者が、月に数回、市役所介護課に出向いて情報の交換を行っている。	管理者が行政に出向き、運営上の課題を相談している。また、介護認定更新、成年後見、経済的弱者などで、助言を得ている。市の介護相談員の受け入れや研修会等で、情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの講習や研修に参加し、全ての介護員に徹底し実践している。玄関の施錠は夜間帯以外は極力行わない。	身体拘束マニュアルを備え、拘束をしないケアを行っている。外部研修会に参加し、拘束の弊害を全員で周知している。玄関の鍵は、日中開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習に参加して、講習終了者が介護員に理解を広める。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現状では一部の介護員に限られているが、必要性のある利用者様には活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書と合わせて、十分説明をして納得して頂いた上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の設置と苦情相談窓口を設けている。玄関口には苦情箱を設置しています。	運営推進会議や面会時に、家族から意見を聴いている。浴室にリフトの設置提案があり、実現している。また、気になる職員の言葉づかい等の指摘があり、速やかに改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議と介護者ミーティングを行い、職員の意見(不満、改善、提案)を話し合い運営に反映している。	月例の全体会議で、意見・提案を話し合っている。手すりの改造やユニット間の食事メニューの調整など、改善している。改善提案の採用には、褒賞制度を設け、活性化につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護員からの提案等の意見を聞き、採用されれば報酬が出るという提案箱が設けられ、意見が採用され反映されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習に費用は会社負担で参加し、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の支部会や勉強会に出席した際に交流、意見の交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークに出向き、直接本人や家族様に希望、要望、趣味等を聞き今後の支援に反映させる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様からの入所の申し込みの時点で、不安な点、要望、利用者様の状況等がある程度把握する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーとも連携を取りながら入所に関してお試しの利用等で見極めを図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護員は、個人の尊厳を重んじ、人生の先輩として敬い、昔の知恵を授かったりして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に本人との面会、年中行事(お花見等)へのご参加等、連絡し、ご家族様との繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出等、一部の利用者様に限られている現状である。ADLの低下に伴い困難な場合があります。	これまで利用者が通っていた、馴染みの商店や道の駅へ、買い物やドライブで出かけている。ユニットが上下階に分離した棟であり、知り合いの利用者同士が、日常的に往来している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間に居る時間が多い為、席には配慮しており、なるべく気の合う者同士で座れる様に組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供書等、転居先の関係者に送付、電話連絡で情報のやり取りを行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の個性を尊重し、個別のケアに努め、ケアプランも本人の希望に添うように作成している。	日常の暮らしの中で、思いを把握している。家族からも情報をもらい、個別シートに記録して共有している。本人にとって、どのような暮らし方が良いのか、日々検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様から過去の生活歴、既往歴等を詳しく聞き、介護と看護サマリーの資料も参考にしてサービスに努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護員が毎日の個人介護記録、体調チェック表を確認。体調の変化、ADLの変化、それに伴う最良の介護方法の対応に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の要望を取り入れ話し合い、看護師や主治医の意見を取り入れ作成している。	毎月のケアプラン会議で、モニタリングの評価を、全職員で検討している。加えて、本人・家族の要望や医師の意見を取り入れ、安心して暮らせるように、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護員が個人記録に介護中での気づきや、些細な件でも事細かに記録し、全介護員が確認。情報を共有して見直しに努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社が併設している有料サービスとも連携を取りながら対応しております。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1度、市の相談員様が2名来所して頂き、利用者様のお話相手、相談相手として支援しておられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院の主治医に月に2度の訪問診療をお願いし、健康管理と薬の処方を行っております。認定に必要な主治医の意見書の記入等の支援も受けております。	家族の希望で、ほぼ全員が、かかりつけ医を協力医に変更している。月に2回、協力医の訪問診察がある。緊急時や入院が必要な場合は、総合病院と連携し、適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に何らかの異常が見られる場合は、昼夜を問わず看護師に連絡をとり指示を受け対応にあたる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	大型の総合病院等の場合は相談員や担当の看護師との連絡を密に取る。直接ご本人に面会して体調の状態を把握する事もあります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームとご家族様の代表者とでターミナルケアの契約を交わした場合に限り、終末期を住み慣れた場所で送られる様に支援している。	終末期の指針を契約書の条文で確認し、本人・家族が同意している。回復の見込みがなく、老衰の診断があれば、看取りの支援体制を整えている。これまで、数例の事例を体験している。	事例を検証し、さらに終末期の介護技術を学ぶと共に、メンタル面では、肯定的な気持ちで支援ができるように期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が主催している救急救命の講習会(AEDの使用方法等)に参加。全介護員に資料等を確認させ徹底させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の全施設対象の避難訓練を実施。また防火管理者研修にも参加している。	定期的に災害訓練を実施している。夜間を想定し、避難誘導、通報、消火など、訓練している。排煙窓の改修や避難階段も新設し、防災カーテンに換えている。地域との協力体制は、検討を重ねている。	周辺に民家が少なく、協力体制づくりに制約がある。連絡網に地域の役職者(区長など)を入れたり、隣接企業への働きかけに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様へのお声掛けは丁寧、親切には常識です。会話の際には失礼のない様、細心の注意をもって対応しております。	高齢者を敬い、丁寧な言葉かけを行っている。温かみのある態度で、本人の話をよく聴き、安心感を与えるように対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で利用者様のご希望、ご要望に傾聴し、可能な範囲内で取り入れる様に努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に添えない場合もありますが、利用者様の身になって対応し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望が最優先です。散髪の際は希望する髪形の意見を取り入れます。備品はご家族様了解の上、購入しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の摂取方法、好物、嫌いな物は把握。本来なら介護員と共に準備、片付けが望ましいがADLの低下等、困難な場合もある。	一人ひとりの嗜好を把握している。また、咀嚼力や病状を考慮して、個別の形態を取っている。職員は、介助と見守り、誤嚥防止に集中している。利用者が手伝うことは、難しくなっている。	職員各自は、弁当を持参のため、味の濃淡が検証できない。検食制度の導入に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月実施の体重測定や、介護記録を参考に食事量、栄養バランスを考慮。特に夏場等は水分摂取に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは自己で出来る方も確認。義歯の方は洗浄剤で付け置き洗浄を行う。一部の利用者様は、ご家族様の希望で歯科衛生士の往診を月に2回行っております。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の介護記録で排泄の習慣を把握。定期的にトイレへの誘導、夜間帯でのポータブルトイレ使用に支援。	個々の排泄パターンを把握している。間に合わず、失禁する人には、事前に声をかけ、トイレへ誘導している。紙パンツとパッドの併用、またパッドのみの人もあり、状態に応じて自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録、献立表を確認。飲食物の工夫、体操の働きかけ。看護師、主治医に相談、連携により予防にも取り組む。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望日、タイミングに合わせる事が困難なのが現状ですが、夜間帯以外は日付を問わず対応している。	毎日入浴できる体制があり、回数は、本人が選択できる。介助者の相性や順番にこだわる人は、言葉かけを工夫し、楽しく入浴できるように支援をしている。今年度、重度者用リフトを設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の訴えや足のむくみの酷い方は日中でも休憩が出来る様に居室で横になられるよう対応している。また夜間は安心して眠れる様に主治医に相談の上、眠薬を処方。居室の空調も配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書で全介護員が確認。症状に変化が見られた場合、月に2度の訪問診療時に主治医に報告して指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様全てはADLの程度で難しい事もありますが、簡単な作業を手伝って頂いている。趣味や好きな事をレクに取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車での近辺ドライブ、買い物レクを実施。利用者様のお誕生日の際にはレストラン等に外食で祝い事もしています。	ホーム周辺の散歩や庭で外気浴を楽しんでいる。ドライブを兼ね、買い物や道の駅など、馴染みの場所へ出かけている。誕生日の外食や季節の花見は、家族と協力して支援をしている。	

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの原因になる事がある為、金銭の所持は原則禁止にしているが、不穩になられる方は特例としている。買い物時の金品の管理、代行の買い物は介護員が行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの要望がある場合は行える様にしているが、習慣的ではない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や玄関等の共用スペースには草花等を飾り、季節感を取り入れている。不快感をあたえる臭いの対応で芳香剤を使用している。	居間にある幅広く長いテーブルを入れ替え、生活空間を広く改善している。装飾品も空間に合わせて、簡素にしている。防臭対策に力を入れ、解消に努め、居心地よく過ごしている。	出入りのチャイム音が、食事中も頻繁に作動している。時間帯を制限するなど、配慮が望ましい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の共有テーブルの席は気の合う方と座れる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの在る家具や私物は持参していただき活用していただいています。家具の配置等、要望がある場合は本人の意見を受け配慮している。	居室には、収納ケースや馴染みの家具などを持ち込んでいます。また、家族の写真や小物類を配置し、安心して過ごせるように工夫している。全室、防災カーテンに取り替えている。	季節の花を、さりげなく飾り、より和めるような工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止の手すり設置など、利用者様のADLIにあった空間作りに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800218		
法人名	株式会社ファミリー中部		
事業所名	グループホームファミリー(2号館)		
所在地	岐阜県土岐市泉町定林寺962-76		
自己評価作成日	平成25年8月5日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(2号館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中での意識付けや月に一度のミーティングなどで共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの周辺に民家が少なく、工場が多いため交流がなかなか困難ではあるが、区内の道づくりなどには参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議で行政や区長・民生委員の方に情報の発信やアドバイスを願っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政の方や地域の代表の方などからの情報や報告を受けている。また家族の代表にも要望や提案などいただき迅速に処理やアイデアなど取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護支援専門員や管理者が月に2~3回程度は市役所に出向き相談や報告を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ケアの講習や勉強会に参加して、全スタッフに周知徹底している。玄関の施錠に関しては夜間に限り防犯のために施錠はしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や講習に随時参加し理解を図っている。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	一部の職員に限られているが、理解を深めるために成年後見制度の講義に参加して多くのスタッフに広めている。今現在2名の利用者が活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	インテークや契約の際に重要事項説明書と合わせて十分説明し理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第3者委員の配置や苦情相談窓口を設けている。ホームの玄関入り口には苦情箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度管理者ミーティングとユニットミーティングを実施し話し合いを行っている。また事務所の提案箱を設置し紙面にて提案を出してもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生面は少しずつ向上している。会社に貢献している社員には給料に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者の意向が研修や講習など積極的に参加させてもらえるので交代で受けるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな勉強会や連携会などに参加してほかのグループホームなど見学させていただきいいところを吸収している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人に直接お会いして希望や要望・不安など傾聴し介護計画などにも活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所の申し込みの段階で不安や利用者の状況など把握できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員とも相談しつつ入所のお試し期間なども行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	^パーソンセンタードケアを重んじ介護に携わっている。本人から学ぶことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話で常に本人の近況報告を行い家族の協力も得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者限定されている。ADLの低下などにより困難な場合もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間のテーブルの席などには配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供や介護サマリーなど関係者に送っている。施設訪問するときもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り個別のケアに努め介護計画も要望に添うように作成している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から生活歴や暮らし振りなど、詳しく聞きサービス向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全スタッフが毎日の介護記録や体調チェック表に目を通し変化やアイデアのヒントになるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	以前はモニタリングを書面で行っていたが現在は話し合いで作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有を大事と考え記録も細かく小さなことでも記録し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問介護事業の施設やお泊りサービスなどと連携しながら柔軟に対応している。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一部の利用者に限られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了解のもとに協力医のクリニックに1ヶ月に2回の往診を行い健康管理と処方支援している。かかりつけ医とは契約書もかわしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者になにかしらの異常がある時は訪問看護師に連絡し指示を受けるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合には面会を兼ねて相談員・主治医のドクターと情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームと家族の代表とでターミナルケアの契約を交わし、住み慣れたホームで終末期を送られるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署開催の救命救急の研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度避難訓練を実施している。消防署立会いのもとで夜間想定で行いました。また、防火管理者講習などにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全スタッフが実践出来ていない。特に言葉かけや入浴介助・排泄など同性介助に努めているがシフトの関係上できないときもあるのが現状。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、利用者に寄り添いコミュニケーションの中で希望や要望を傾聴し取り入れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフのシフトの関係であながち利用者のペースにそぐわない場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力も得て本人の希望を最優先に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	実践出来ていない。ただ好みの物はそれぞれに把握し別メニューで提供する時もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は特に気をつけている。誤嚥の心配がある方にはトロミをつけている。又食事の摂れないときは、経口栄養食を出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ではないが、朝と夕食に行っている。義歯に関しては洗浄剤に一晩つけ置き洗いをしている。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録や夜勤日誌などで各利用者の排泄リズム・パターンをつかみトイレの声かけや誘導にこころがけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・果物の繊維質の提供や医師・看護師と連携し下剤など処方してもらい対応に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を毎日にしたことで入りたい時に入れるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間もつらいときは自室で休んで頂いている。夜間眠れない利用者には、眠剤を処方してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報にスタッフ全員目を通し理解してもらい確実に飲んでもらうまで見守りをつづける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員ではないが生活歴、趣味など取り入れ、レクに活かしている。気分転換としてドライブなども行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	極一部の利用者に限られるがドライブや買い物、たまに喫茶外出など支援している。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針で印鑑、お金、通帳などの所持や預かりなども家族に了解をとり行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望がある時に限り出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感などは、四季の草花を飾っている。玄関先にもプランターや鉢植えなど置いて季節を味わえるようにしている。空調にも配慮し芳香剤を各所においている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の配置など常に考え気の合ったもの同士座れるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力も得て使い慣れた馴染みの物を持ち込み使っている。部屋のレイアウトは本人の意思を尊重している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止に努めその人に合った空間作りをしている。		